

Let's チャレンジ！重複障がい学級におけるキャリア教育 ～一人一人の自己実現のために～

熊本県立荒尾支援学校

1 はじめに

本校は、子どものキャリア発達を促す教育の視点として「かかわる力」「きめる力」「はたらく力」（通称か、き、は）を挙げ、一人一人の実態や変容を丁寧に捉え、教育に当たっています。重複障がい学級では、この3つの視点で児童生徒の可能性を引き出し、現在の学校・家庭・地域生活のみならず、卒業後の生活に「自ら」「自分らしく」参加（自己実現）できる力の育成を目指しています。

本稿では、このようなねらいのもと取り組む重複障がい学級におけるキャリア教育を、小、中、高のつながりを意識しつつ改善した本年度の実践について報告します。

重複障がい学級では「3つの力」を以下のように捉えています。

かかわる力：周りの人と触れ合い、やりとりをする。人や場の雰囲気を感じて応える。

きめる力：自分の動きで選択する。好きなものや活動がある。

はたらく力：できる動きで取り組み、自分の役割を果たす。

様々な経験をする。刺激を受容し、働きかける。

2 総合的な学習の時間「施設見学・体験」について

重複障がい学級では、中学部から高等部へと段階的に施設見学・体験を実施しています。この学習は保護者も一緒に見学や体験に参加することが大きな特徴です。生徒は直接サービス体験をし、保護者は直接情報収集（施設との懇談等）を行います。この取組を繰り返しながら、本人・保護者に合った施設を選ぶための、貴重な情報収集の場になるように計画します。

中学部			高等部			
施設見学			施設体験			
期日	【第1回】6月下旬に半日 【第2回】11月下旬に半日		【第1回】6月下旬に1日間 【第2回】9月下旬に1日間			
見学・体験先	有明圏域(6施設)		有明圏域(6施設) 卒業後利用希望施設			
目的	<ul style="list-style-type: none"> はじめての環境(人・場所)での活動に参加する。 卒業後の生活を知る。 		<ul style="list-style-type: none"> いろいろな施設があることを知る。 自分らしい卒業後の生活について考える。 施設での生活に慣れる。 施設との関係を築く。 進路先を選ぶ。 			
学習内容	事前学習	1	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後の生活について知る。 施設見学について知る。 	事前学習	1	<ul style="list-style-type: none"> 働く大人について知る。 施設体験について知る。
	当日	2～4	<ul style="list-style-type: none"> グループ毎に各施設での見学活動を行う。 (施設の写真を撮る、利用者の様子、インタビュー内容をワークシートに記入) → 	当日	2～7	<ul style="list-style-type: none"> 施設での一日にチャレンジ。(朝の集い、午前の活動、昼食、午後の活動)
	事後学習	5～7 8	<ul style="list-style-type: none"> 見学した内容をグループ毎にまとめる。 グループ毎にまとめた内容を発表し合う。 	事後学習	8	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価を行う。 次回の体験の目標を考え、ラズで共有する。

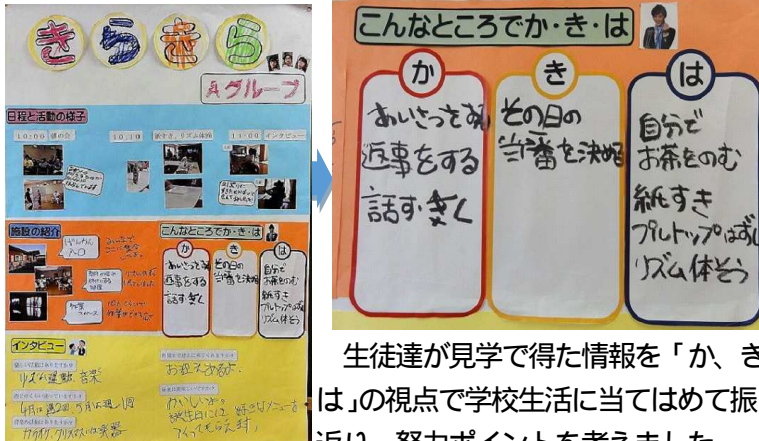
見学・体験の様子



見学を通して、施設での生活を知り、学校での学びに向かう態度へとつなげます。

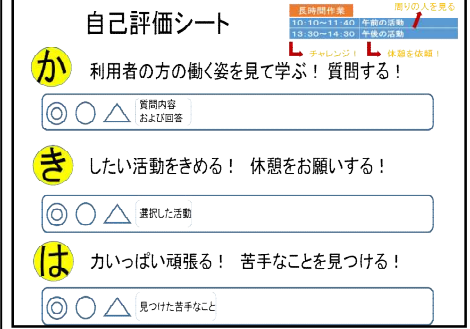
体験を通して、得意なことやできることを再確認します。また、苦手なことや施設で必要になる力を知ることで、学習意欲の向上へとつなげます。

中学部のまとめ



生徒達が見学で得た情報を「か、き、は」の視点で学校生活に当てはめて振り返り、努力ポイントを考えました。

高等部のまとめ



具体的に自己評価をすることで、今後の学校生活、卒業後へ向けての意識を高めていきます。

3 教師・保護者・施設の職員からの意見

教師 (Teacher):

- インタビューを行ったことで、施設のパンフレットには載っていない詳しい内容まで知ることができた。
- 見学を終えた後から、支援者の介助が少なくなるように努力する生徒の姿が見られた。

施設の職員 (Facility Staff):

- 重複障がいのある生徒について知る機会となった。障がいの重い生徒も環境を調整すれば、活動に参加できることが分かった。

保護者 (Guardian):

- 卒業生の姿が見られよかった。卒業生の方が落ち着いて活動に参加されていて、成長を感じた。
- 中学部から取り組んでいるので子どもの将来について真剣に考えるようになった。
- 在学中に1つでもできることを増やし、卒業後の生活につなげたい。

4 今後の取組

今年度改善実施した、中学部・高等部の段階的施設見学・体験の取組結果は、後に小学部の職員とも共有し、職員全員が卒業後に必要な力の共通意識をもつ機会となりました。このことがひいては、小中高の十分なつながりをもった教育課程改善につながると考えます。たとえば、中高生のインターンシップのようすを、小学部の児童も交えて聞く（共有する）機会を設け、すべての年齢段階の児童生徒が、先輩の学習をヒントにして自分の将来の生活に夢や希望をもち、先輩にあこがれる機会を創出するなどの改善を加えていけば、子どもたちの学校生活の刺激になると考えます。

今後も、小中高と系統的なキャリア教育を積み重ね、子ども自身が卒業後の進路選択に関わることのできる体験学習を充実させ、将来の社会参加と自己実現を支援し、地域生活へのスムーズな移行を図って参ります。